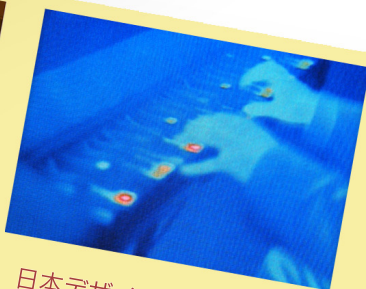


「ほどほどに」を伝えるインタフェース

宮下 芳明

北陸先端科学技術大学院大学 科学技術戦略センター

経験に基づくトップダウン的な理論であれ、評価実験から得られるボトムアップ的な知見であれ、芸術のための知識は「従わなければならないルール / やってはならない禁止事項」というよりは「ほどほどに」といった程度の緩やかな制約であることが多い。その特性を鑑みたかたちで芸術表現の行為を支援するインタフェースを設計するとすれば、どのようなデザインが適切なのだろうか？ この講演では、音楽の即興演奏からお酒の飲み方へと、幅広い領域で支援形態のデザインについて考える。



2006. 7. 1 (土) 19:30 -
金沢全日空ホテル

日本デザイン学会平成 18 年度春季大会 (第 53 回研究発表大会) 「美と知のデザイン」



宮下芳明 Homei Miyashita, Ph.D.

1976 年イタリア国フィレンツェ生まれ。千葉大学にて画像工学、富山大学大学院にて音楽教育（作曲）を専攻、北陸先端科学技術大学院大学にて博士号（知識科学）取得、優秀修了者賞。北陸先端科学技術大学 科学技術戦略センター研究員（2006-）。